

令和2年度 第2回学校評議員会 会議録

1 会議の名称

令和2年度岩手県立住田高等学校第2回学校評議員会

2 会議の構成及び出欠状況について

(1) 学校評議員

岩角 聖孝 氏	住田町立有住中学校長
菅野こずえ 氏	無職
菊池 和子 氏	住田町社会福祉協議会
佐々木 純 氏	東海精密工業岩手事業所管理部部長代行
佐々木一男 氏	無職

(2) 学校職員

菅野 誠二	校長
菅野 幸貴	副校長
菊地 均	総務主任
利府 崇	教務主任
高橋 義柄	生徒指導主事
西出 和久	進路指導主事
吉田 一知	総務課 (記録)

3 会議の開催

令和3年2月18日 (木) 14:20~15:10 [住田高等学校会議室] 評議員3人、学校職員7人

4 会議の次第

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ
- (3) 学校概況 (経過) 報告について
- (4) 学校評価に関わる報告及び学校経営計画評価指標の達成状況について
- (5) 学校概況について (教務進路課・生徒厚生課より)
- (6) 意見交換
- (7) その他
- (8) 閉会のことば

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

本日の評議員会は学校概況等の説明となる。忌憚のないご意見を頂戴したい。

(2) 学校概況 (経過) 報告について (資料に基づいて説明)

(3) 学校評価に関わる報告及び学校経営計画評価指標の達成状況について (資料に基づいて説明)

評議員：進路指導の状況に関して、新型コロナウイルスの影響によりオンライン形式を取り入れたとの説明があったが、でオンラインでの面接練習などは行われたのか。

学校側：昨日の進路説明会もそうであったが、主に講演会においてオンライン形式を採用した。

評議員：現在、就職面接などもオンラインで行われている。高校生にも練習させておくと良い。

学校側：おっしゃるとおりである。今後取り組んでいきたい。

評議員：平均読書量が増えた理由は何か。

学校側：全体としても増加傾向であるが、今年度は多くの本を読む生徒がおり、平均冊数が上がった。

評議員：新型コロナウイルスで在宅時間が増えたのも理由の一つかもしれない。

(4) 学校概況について（資料に基づいて説明）

ア 教務進路課（教務担当）

評議員：中学生一日体験入学は生徒のみ（保護者別）で61名なのか。

学校側：中学生のみで61名である。その他に保護者や中学校の先生にも来校していただき、大盛況だった。

イ 教務進路課（進路担当）

学校側：インターンシップや企業見学など、進路指導関係は外部との連携が必要で、新型コロナウイルスの影響を最も受けた。昨日実施した進路説明会では、住田町教育委員会の教育コーディネーターを中心に企画立案していただき、住田町のバックアップで良いものにすることができた。

ウ 生徒厚生課

学校側：保護者との連携を密にしながら指導を進めていきたい。感情で動いてしまいがちな生徒もいるが、褒めながら自己肯定感を持たせる指導を心がけていく。

2年3年と学年が上がるに連れて、生徒は良くなっている。本人達も良くなりたいと思っている。粘り強く指導していきたい。

(5) 意見交換

評議員：地域創造学は実際どのような取り組みをしているのか。

学校側：町の教育研究所がすすめている事業であり、文部科学省の研究開発学校に指定されている。

1年生（第4ステージ）は住田町を知り、自分の興味関心のあるものを見つけ、調査研究している。2年生からは地域の人を幸せにする「すみたハッピープロジェクト2020」に取り組んでいる。小学生から高校までの12年間で、社会的実践力を身につけることを目指して実施している。

1年生では、まちやの蔵や伝統芸能、たたら製鉄などについて調べた生徒がいる。2・3年生では、カメムシを使った香水、住田の名称やいいところを用いた歌の作成、雑草を使った料理など、実際にアクションを起こして、住田町や地域の人々に何か貢献できないかを探究している。

今年から町内の中学校へ出向いて探究内容の発表をしている。住田高校の生徒が格好いいと思ってもらえると、地元からの進学者も増えるのではないかと。

評議員：高校入試の志願倍率は高かったのでは何よりである。県外からの希望者はいるのか。

学校側：住田町の協力により、地域みらい留学に登録していただいている。例年であれば、東京などに出向いて住田高校の宣伝、プレゼンテーション等を行っているのだが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響でできなかったため、オンラインで説明会を行った。教育コーディネーターを中心としながら、生徒、町の方々、校長、副校長等で住田町や住田高校の説明を行った。県外留学は西日本の方が盛んで、島根などの実績がある県へ中学生は行ってしまいがちであった。中学生一人が本校に興味を示してくれたが、地元の高校へ進学するとのことであった。

評議員：住田高校の場合は民泊になるのか。

学校側：大船渡の民宿を紹介している。高校から離れているので、この点が難しいところである。

評議員：今年の住田高校のPRポスターは素敵であった。

学校側：住高ハウス〇〇のチャレッジ部の生徒にPRポスターを作成してもらった。教育コーディネーターのお力添えが大きい。

評議員：地域創造学でのカメムシの香水はすばらしい。発想が素晴らしい。

学校側：ユニークな取り組みを大事にしたい。

評議員：校則に関しては、髪を染めさせたということで裁判沙汰になったりしている。住田高校は柔軟に対応していることが分かった。企業も規則を守ることについて社内で揉めることがあるので、見習いたい。

(6) その他

次年度の第1回開催日程は、令和3年5月14日（金）午後の予定であることを確認した。